

2005年度 第3回 鋼構造座屈小委員会 議事録

日時： 2005年11月2日(水) 13:00 - 16:00

場所： 建築会館

出席者： 荒木慶一、五十嵐規矩夫、井戸田秀樹、金尾伊織、川口淳、田川浩、竹内徹、
多田元英、緑川光正

資料

- No. 3-1 第2回鋼構造座屈小委員会議事録
- No. 3-2 鋼構造座屈設計指針改訂メモ(多田)
- No. 3-3 梁の変形能力評価式について(2)(井戸田)
- No. 3-4 建築物の構造規定 横座屈補剛規定について (金尾)
- No. 3-5 骨組の章の改訂について(田川)

審議議題

1. 改訂スケジュールの説明、その他

多田主査から改訂スケジュールの説明：改訂事項に関する資料提出(2年目)、原稿作成(3年目)、成果物脱稿(4年目秋頃)

第8章担当の田川委員の紹介

第2回議事録の内容確認

座屈小委員会ホームページ開設の案内

2. 座屈設計指針の改定へ向けた各委員のメモについて(発表順)

No. 3-2 鋼構造座屈設計指針改訂メモ(多田)

各章毎の改訂予定事項の概説

「鉛直荷重のみを支持する柱」という用語の意味は？ 他の耐震要素が水平力を負担するので、水平力を負担する必要がない柱

No. 2-3 第3章「筋かい材」と第7章「平面及び塔状トラス」に関するメモ(竹内)

座屈後安定耐力について記述が必要との指摘があるが、その理由は？ 保有水平耐力算出に必要であるから

単調載荷時の座屈後挙動よりも、繰返し載荷時のエネルギー吸収能力が重要なのでは？ 設計において単調載荷時と繰返し載荷時の挙動を考慮する意味を区別して記述する必要がある

偏心ブレースは梁もしくは板の章で扱うべきでは？ 他の章との交通整理が必要
構造計画でブレースが果たす役割についての記述が必要 変形抑制、心棒としての機能、or エネルギー吸収

章・節の項目変更：3.3.4 「筋かい材の累積変形性能」へ変更、3.4.4 「筋かい

材の接合部の設計」へ変更、3.4.5 削除、3.5「座屈拘束筋交い」新設
幅厚比の扱いをどうするか？ 局部座屈に関するデータを記述？

第 7 章 特に変更は必要ない、座屈に関する新たな知見（座屈をさせない部材など）を記述

No. 3-5 骨組の章の改訂について（田川）

8.5、8.6 節を 11 章へ移動

8.2 に不均等骨組における柱の座屈長さに関する最近の研究成果を盛り込む

8.3.2 は第 3 章へ移す方が適切では？ 筋かい材と周辺部材のインタラクションなので、第 8 章の方が適しているともいえる 来年再調整必要

No. 3-4 建築物の構造規定 横座屈補剛規定について（金尾）

均等補剛間隔に関してなど、さらに資料を調査する

p.7 のような各指針・規基準間の比較の表があると便利である

No. 3-3 梁の変形能力評価式について（2）（井戸田）

梁の変形性能やエネルギー吸収能力 設計資料とするにはやや整理不足なので、データベースに基づいた整理をし直して適用範囲やばらつきの情報を載せる方向で改訂を進める

変形性能で座屈に関係があるものや、変形性能を高めるための工夫（補剛など）に関する研究成果を盛り込む

単調載荷時の塑性変形能力の意味と、繰返し載荷時のエネルギー吸収能力の関係について、整理した上での記述が必要（例：単調載荷時の性能向上が繰返し載荷時の性能向上に必ずしもつながらない）

口頭発表 第 5 章の柱の章の改訂について（川口）

6.5 を 5 章に入れるという話があったが、断面の耐力に関する内容なので、6.5 節の名称を変更するほうが適切

3 . 今後の予定

今回検討できなかった部分についての検討を行う

次回の委員会開催については調整後決定